イワタニカセットガス

作成日　２０２２年　２月２２日
改訂日　２０２５年　６月３０日

１．製品及び会社情報

製品の名称　：　イワタニカセットガス、イワタニカセットガスジュニア、
イワタニカーボンオフセットカセットガス
イワタニカセットガスパワーゴールド、カセットガス FORE WINDS ノルマル
カセットガス FORE WINDS イソ

製品コード　：　ＣＢ−２５０−ＯＲ、ＣＢ−２５０Ｓ−ＯＲ、ＣＢ−ＪＲ−１２０Ｓ、
ＣＢ−ＪＲ−１２０Ｐ、ＣＢ−２５０Ｓ−ＧＲＪ
ＣＢ−２５０−ＰＧ、ＦＷ−２５０−ＮＲ、ＦＷ−２５０−ＩＳ

供給者の会社名称　：　岩谷産業株式会社　カートリッジガス本部

住所　：　東京都港区浜松町２－３－１

電話番号　：　０３−５４０５−５８３６

ＦＡＸ番号　：　０３−５４０５−５６３７

用途と使用上の制限　：　当社のカセットガス器具専用燃料

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

【物理化学的危険性】

可燃性ガス　：区分１

高圧ガス　：液化ガス

【健康有害性】

特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：区分１循環器系
区分３　麻酔作用

特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：区分１中枢神経系

【環境有害性】　：区分に該当しない

ＧＨＳラベル要素

絵表示：

注意喚起語　：　危険

危険有害性情報　：　極めて可燃性の高いガス

高圧ガス：熱すると爆発するおそれ
循環器系の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害

注意書き

【安全対策】：熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
ガス／スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【救急処置】：漏洩ガス火災の場合には：漏洩が完全に停止されない限り消火しないこと
安全に対処できるならば着火源を除去すること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

【保管】：日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
部外者が立ち入らない場所に保管すること。

【廃棄】容器は完全に使い切ってから地域の取り決めに従って廃棄してください。

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分	：	混合物
化学名又は一般名	：	液化石油ガス（ＬＰＧ／液化ブタン） （ブタンC4H10 を主成分とした炭化水素混合物）
濃度又は濃度範囲	：	９５％以上
ＣＡＳ番号	：	６８４７６－８５－７（ＬＰＧ）
官報公示整理番号	：	９－１６９７（ＬＰＧ）

※主成分及び混合物の各成分は「（別表）物理的及び化学的性質」を参照。

４．応急措置

吸入した場合	：	大量吸入の場合は、酸素欠乏の措置を行う。なお、必要に応じて医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	：	凍傷の手当てを行う。
眼に入った場合	：	清浄な水で十分洗浄する。
飲み込んだ場合	：	吸入した場合もしくは皮膚に付着した場合に準ずる。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	：	液状の液化石油ガスが皮膚に付着した場合は凍傷となる。 高濃度の液化石油ガスを吸入すると、一呼吸で意識を失う。この状態が継続すると死にいたる。
応急処置をする者の保護に必要な注意事項	：	液状の液化石油ガスが漏洩又は噴出している場所では、液化石油ガスを皮膚に付着させないよう、保護具を着用する。

液化石油ガスが漏洩又は噴出している場所は、空気中の酸素濃度が低下している可能性があるので換気を行う。
漏洩した液化石油ガス濃度が空気中の約１．８～９．５%のとき、着火源があると爆発するおそれがあるので、換気をよくする。屋外であれば噴霧ノズル等で散水することにより拡散させ爆発を防止する。

医師に対する特別な注意事項 ： 情報なし

５．火災時の措置

適切な消火剤 ： 小火災：二酸化炭素、ＡＢＣ又はＢＣ型粉末消火剤
大火災：散水、噴霧水

使ってはならない消火剤 ： 棒状注水

火災時の特有の危険有害性： 極めて可燃性の高いガス
容易に発火するおそれがある。
過熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法 ： ガスの供給を断つ。噴霧ノズル等で散水するなどにより周辺を冷却し延焼防止を図る。
風上から水を噴霧して容器を冷やしながら周囲の消火を行う。
周辺火災の場合は、容器を安全な場所に移動する。
漏洩したガスは、水噴霧等によって拡散させ、爆発を防止する。
ガスの流出を防止できる場合は、消火剤にて消火する。
ガスの流出が防止不可の場合は、消火せず鎮火を待つ。
関係者以外は安全な場所に避難させる。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置 ：消火作業の際は空気呼吸器及び防護服を使用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 ： 空気中に約１．８%～９．５%の濃度の範囲内で着火源があると爆発するので、安全が確認できない場合は近寄らない。
漏洩した液体が気化すると体積は約２５０倍となり、空気中の酸素濃度を低下させるので、窒息の危険を防止するために換気をよくする。
液体の液化石油ガスが直接身体に触れると気化熱により凍傷を起こす。必要に応じて乾いた革手袋を着用する。
： 帯電防止服・靴、革手袋を着用する。必要に応じて空気呼吸器及び防護服を使用する。

環境に対する注意事項 ： この物質に関する確定された環境影響情報は無い。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 ： 危険でなければ漏れを止める。
可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。
蒸発を抑え、蒸気の拡散を防ぐため散水を行う。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

二次災害の防止策　：　付近の着火源を取り除く。ガス供給を断つ。

漏洩個所の漏れを止める。

液化石油ガスは空気より比重が重く滞留のおそれがあるので、換気・拡散等を行う。

７．取扱い及び保管上の注意

この製品（イワタニカセットガス・カセットガスジュニア・カセットガスパワーゴールド・カセットガス FORE WINDS ノルマル、カセットガス FORE WINDS イソ）は当社カセットガス器具専用燃料です。この製品の使用を指定している器具（こんろ等）以外には使用しないでください。ガスが漏れたり、着火しない恐れがあります。

本製品はＬＰＧを成分とする引火性の強い高圧ガス製品であり、ＬＰＧが空気と混合すると、爆発性混合ガスとなり大変危険なため、漏えいには十分注意してください。

以下の取扱い及び保管上の注意をよく読んでお取扱い願います。

取扱いを誤ると火災・破裂・酸欠・中毒など重大な事故を招く恐れがありますので、火気・高温・ガス漏れなどに注意し、安全のため必ず以下の注意事項を必ずお守りください。

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性の製品であり、危険なため、下記の注意を守ること。
①こんろで炭の火をおこしたり、こんろを2台以上並べて使用しないこと。
②高温にすると破裂の危険があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に置かないこと。③火の中に入れないこと。
④使い切って捨てること。⑤ガスを再充填しないこと。高圧ガス:LPG(液化ブタン)

取扱い

１）器具の取扱説明書をお読みの上、容器は表示どおり器具に正しくセットして使用してください。ガス漏れの恐れがあります。

２）容器が爆発する恐れがありますので、以下を必ずお守りください。

・容器をストーブやファンヒーターなど熱気のあたる所に置かないでください。

・容器を電磁調理器の上には置かないでください。

・鉄板や鍋底がこんろの容器カバーを少しでも覆う使用はしないでください。

３）容器は完全に使い切ってから地域の取り決めに従って廃棄してください。清掃車火災などの恐れがあります。

４）器具は車内・テント内等の狭い空間では絶対に使用しないでください。また屋内で使用する場合には喚気に十分注意してください。一酸化炭素中毒や酸欠により死亡または重症の原因になります。

５）ガスを故意に吸引すると、酸欠により窒息死する原因となります。

６）ガスボンベ詰替キット等の使用による再充填は危険ですのでおやめください。

７）冬期の低温時及び器具によっては、ガスの出が落ちる場合があります。

保管

８）思わぬ事故の原因となりますので、次のことをお守りください。

・容器は４０℃以下の湿気の少ない場所にキャップをして保管してください。
・容器に錆が発生している場合には、ガス漏れのないことを必ず確認して、できるだけ早期に使用してください。
・使用後は器具から外してキャップをして保管してください。
・子供の手の届かない場所に保管してください。
・容器を棚など落下しやすい場所には置かないでください。

９）容器は製造後約７年以内を目安に使い切ってください。

１０）倉庫等で３００ｋｇ以上を貯蔵する場合は、消防法に従って保管してください。

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会（２０１８年５月版）	：	ノルマルブタン	500ppm(注１)
		イソブタン	500ppm(注１)
		ノルマルペンタン	300ppm(注１)
		メタノール	200ppm(注１)
米国産業衛生専門家会議 (2016 年版 TLV-TWA)	：	ノルマルブタン	1,000ppm(注２)
		イソブタン	1,000ppm(注２)
		ノルマルペンタン	1,000ppm(注３)
		イソペンタン	1,000ppm(注３)
		エチレン	200ppm(注３)
		プロピレン	500ppm(注３)
		メタノール	200ppm(注１)

(注１)１日のばく露平均濃度がこの値を超えてはならない。

(注２)いかなる１５分間のばく露濃度の平均値もこの値を超えてはならない。
(STEL：短時間ばく露限界値)

(注３)１日のばく露平均濃度がこの値を超えてはならない。
(TWA：時間加重平均)
ばく露濃度とその持続時間の積の総和を総時間数で割ったもの。

設備対策　：　屋内で使用する場合は、換気をよくする。
液化石油ガスが漏洩し、滞留する恐れのある場所には、空気中のガス濃度が約０．５％（爆発下限界の約１／４）以下で警報を発するガス漏れ警報器を設置する。

呼吸用保護具　：　必要に応じて空気呼吸器を使用する。

手の保護具　：　必要に応じて乾いた革手袋を着用する。

目の保護具　：　必要に応じて保護眼鏡を着用する。皮膚及び身体の保護具
：　使用形態に応じた作業服、ヘルメットを着用する。

９．物理的及び化学的性質

外観（物理状態、形状、色など）：大気圧下…ガス状・無色透明・無臭（工業用無臭のガス以外は着臭）
圧力容器内…液状・無色透明

臭い：無臭であるが、通常は空気中に 1/1000 漏れれば分かるように着臭してある。着臭していないものもあるので注意が必要。

可燃性：可燃性ガス

分解温度、ｐＨ：データなし

動粘性率、粒子特性：分類対象外（大気圧下でガス状）

その他物理的及び化学的性質：別表に示すとおり。

１０．安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	：	通常状態では安定
危険有害反応可能性	：	酸化性物質と激しく反応 プロパン：二酸化塩素とは激しく爆発 ブタン：ニッケルカルボニル＋酸素との混合ガスは爆発を起こす
避けるべき条件	：	燃焼（爆発）範囲内にあって着火源があると、燃焼・爆発するので、その条件を避ける。
避けるべき材料	：	アルコール及びエーテルに溶解し、石油類や動植物油、天然ゴムをよく溶解する。
混触危険物質	：	強酸化剤
危険有害な分解生成物	：	燃焼するとき十分な空気が供給されないと不完全燃焼し、有毒な一酸化炭素が発生する。

１１．有害性情報

急性毒性（経口）	：	メタノールが区分４、その他の成分が「分類対象外」、「区分に該当しない」等なので、「区分に該当しない」とした。
急性毒性（吸入：気体）	：	すべての成分が「区分に該当しない」もしくは「分類できない」ので、「区分に該当しない」とした。
皮膚腐食性/刺激性	：	すべての成分が「区分に該当しない」もしくは「分類できない」ので、「区分に該当しない」とした。「区分外」となる。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：	プロパンが「情報なし」、イソペンタンが「区分２」、ノルマルペンタン、1-ブチレンが「区分２Ｂ」、イソブタンが「区分に該当しない」、メタノールが「区分２」に該当し、その他成分は「分類できない」ので、「分類できない」とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	：	ノルマルペンタン、イソペンタンが「皮膚感作性」で「区分に該当しない」以外は、すべての成分が「分類できない」ので、「分類できない」とした。
生殖細胞変異原性	：	すべての成分が「分類できない」なので、「分類できない」とした。

発がん性　：　すべての成分が「分類できない」なので、「分類できない」とした。

生殖毒性　：　メタノールが「区分１Ｂ」、その他の成分が「分類できない」なので、「分類できない」とした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　イソブタンが「区分１（循環器系）」に該当し、全成分の濃度を計算すると「区分１」となる。

メタノールが「区分１（中枢神経系、視覚器、全身毒性）」に該当するが、全成分の濃度を計算すると「区分に該当しない」となる。

1-ブチレン、cis-2-ブチレン、trans-2-ブチレン、イソブチレンが「分類できない」以外、プロパン、ノルマルブタン、イソブタン、ノルマルペンタン、イソペンタン、エタン、エチレン、プロピレン、メタノールが「区分３（麻酔作用）」に該当し、全成分の濃度を計算すると「区分３（麻酔作用）」となる。

ノルマルペンタン、イソペンタンが「区分３（気道刺激性）に該当するが、全成分の濃度を計算すると「区分に該当しない」となる。

【根拠データ】

職場のあんぜんサイト モデルSDS(JIS Z7253:2019準拠)2-メチルプロパン（イソブタン）より抜粋

(1)ブタンガス（量不明）を吸入し死亡した4人のうち3人で、n-ブタン、イソブタン（本物質）、又はn-ブタン、本物質、およびプロパンの混合物が血液、脳、および肺から検出され、炭化水素合計の濃度は全例とも脳で最大値であった。著者らは他のn-ブタン中毒1例もあわせて、5例の死因は心臓リズムの障害の疑いがあると報告した（DFGOT vol. 20（2003））。

(2)16歳の少年がブタンガス吸入後に心不全を起こした。心電図上で異常がみられたが、心不全誘発の機序は不明であった。著者らは中枢抑制に加えて、酸素欠乏、心停止の原因を引き起きす心室粗動、あるいはブタンによる直接的な心停止誘導が関係していると報告した（DFGOT vol. 20（2003））。

(3)2歳の女児が本物質とブタン、プロパンを含む消臭剤をばく露後に心室性頻脈、強直性の発作、低カリウム血漿を生じた。頻脈は消臭剤ばく露と内因性エピネフリンが原因と考えられている（Patty（6th, 2012））。

(4)イヌ(無麻酔)に本物質50, 000 ppm(4時間換算値:7,906 ppm)で6分間吸入ばく露後、心臓感作によるエピネフリン誘発性の不整脈を生じた。この他、エピネフリンで前処置したマウスやイヌを用いた麻酔下での実験で、本物質の短時間吸入による心臓感作性応答がみられたとの幾つかの報告がある(DFGOT vol. 20(2003))。

(5)本物質吸入ばく露によるラットの中枢抑制のEC50は200,000 ppm、同イヌの麻酔作用のEC50は450,000 ppmとの報告がある

（ACGIH（7th, 2017)、DFGOT vol. 20（2003))。
(6)n-ブタンと本物質のオリーブ油中の溶解度および空気とオリーブ油との間での分配係数をベースにすると、ヒトの麻酔作用発現濃度はn-ブタンで17,000 ppm、本物質で24,000 ppmと推定される（DFGOT vol. 20（2003))。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　ノルマルブタンが「区分１（中枢神経系)」、メタノールが「区分１（中枢神経系、視覚器)」に該当し、全成分の濃度を計算すると「区分１」(中枢神経系)」となる。

【根拠データ】

（ノルマルブタン）

(1) ライター用交換缶のブタンガスを4週間乱用した15歳の少女で重篤な脳の障害が生じ、入院加療後に神経性合併症を発症した。MRI検査の結果、灰白質の崩壊や脳の萎縮等がみられた（PATTY（6th, 2012))。

(2) ブタンガスを乱用した青年男女で幻覚、幻聴等の神経症状が発症したとの複数の報告がある（PATTY（6th, 2012))。

(3) ブタンガスを繰り返し吸入した12人のほとんどで、多幸感及び幻覚がみられた（DFGOT vol.20（2003))。

（メタノール）

ヒトの低濃度メタノールの長期暴露の顕著な症状は広範な眼に対する障害だったとする記述（EHC 196（1997)）や職業上のメタノール暴露による慢性毒性影響として、失明がみられたとの記述（ACGIH（7th, 2001)）から区分１（視覚器）とした。また、メタノール蒸気に繰り返し暴露することによる慢性毒性症例に頭痛、めまい、不眠症、胃障害が現れたとの記述（ACGIH（7th, 2001)）から、区分１（中枢神経系）とした。なお、ラットを用いた経口投与試験で肝臓重量変化や肝細胞肥大（PATTY（5th, 2001)、IRIS（2005)）などの報告があるが適応性変化と思われ採用しなかった。

誤えん有害性　：　ノルマルペンタン、イソペンタンが「区分１」に該当する。
但し、吸引呼吸器有害性は液体又は固体の誤えんによる有害性を規定したものであり、液化石油ガスは対象外となる。

１２．環境影響情報

水生環境有害性　短期（急性）　：　ノルマルペンタン、イソペンタンが「区分２」に該当するが、全成分の濃度を計算すると「区分に該当しない」となる。

水生環境有害性　長期（慢性）　：　エチレンが「区分３」に該当するが、全成分の濃度を計算すると「区分に該当しない」となる。

オゾン層への有害性　：　モントリオール議定書の附属書ＡからＥに記載された規制物質を含んでいないため「対象外」とした。

生態毒性　：　情報なし
残留性・分解性　：　情報なし
生態蓄積性　：　情報なし
土壌中の移動性　：　情報なし

１３．廃棄上の注意

容器は完全に使い切ってから、地域の取り決めに従って廃棄してください。
ガスが残ったまま廃棄すると清掃車火災の恐れがあります。

残余廃棄物　：　液状での大気放出をしてはならない。
やむを得ずガス状で放出するときは、火気のない屋外の通風のよい大気中に、着地濃度が０．５％以下であることを確認しながら徐々に行う。
廃棄は、容器とともに行ってはならない。

１４．輸送上の注意

国際規則

国連番号　UN No.	２０３７	分類	高圧ガス
クラス	２．１	項目	引火性高圧ガス
品名（日本語）	小型ガスボンベ （ガスを放出する装置がないものであって、再充てんができないものに限る）		
品名（英語）	RECEPTACLES, SMALL, CONTAINING GAS or GAS CARTRIDGES without a release device, non refillable		

海上規制情報　：　ＩＭＯ（International Maritime Organization：国際海事機関）の規定に従う。
航空規制情報　：　ＩＣＡＯ（International Civil Aviation Organization：国際民間航空機関）／ＩＡＴＡ（International Air Transport Association：国際航空運送協会）の規定に従う。

国内規則
陸上規制情報　：　道路法の規定に従う。
海上規制情報　：　船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報　：　航空法の規定に従う。

輸送時特別安全対策　：　転倒・転落・衝撃等を避ける。
できるかぎり温度上昇防止に努め、消火器、防災工具やイエローカード等の携行が望ましい。
緊急時応急措置指針番号　：　１１５

１５．適用法令

消費生活用品安全法　：　消費生活用製品に該当（法第２条定義）

高圧ガス保安法　：　エアゾール類（内容積１リットル以下）の適用除外
（法第３条第１項第８号、施行令第２条第３項第８号、
政令関係告示第１３９号第４条第３号）

液化石油ガス法*1　：　器具省令*2第３条別表第一「カートリッジガスこんろ」を構成する燃料容器に該当
*1液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律
*2液化石油ガス器具等の技術上の基準等に関する省令

消防法　：　貯蔵等の届出を要する物質　液化石油ガス【指定数量３００ｋｇ】
（法第９条の３・危険物令第１条の１０）

船舶安全法　：　高圧ガス／小型ガスボンベ
（危規則第２，３条危険物告示別表第１）

航空法　：　高圧ガス／小型ガスボンベ
（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）

労働安全衛生法　：　適用外　…　一般消費者の生活の用に供される製品
（法第５７条＆第５７条の２）

１６．その他の情報

参考文献

１．　ＧＨＳ対応による混合物（化学物質）のＭＳＤＳ作成手法の研修テキスト（改訂版），中央労働災害防止協会
２．　中央労働災害防止協会・安全衛生情報センター，　http://www.jaish.gr.jp/
３．　ＧＨＳ分類マニュアル「H18.2.10 版」，ＧＨＳ関係省庁連絡会議編
４．　国際化学物質安全性カード（ＩＣＳＣ）日本語版，国立医薬品食品衛生研究所(NIHS)
５．　職場の安全サイト，厚生労働省，http://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html
６．　化学品の分類および表示に関する世界調和システム（ＧＨＳ）改訂４版，国際連合（経済産業省訳）
７．　JIS Z 7253：2019「ＧＨＳに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（ＳＤＳ）」，日本規格協会
８．　JIS Z 7252：2019「ＧＨＳに基づく化学物質等の分類方法」，日本規格協会
９．　日本ＬＰガス団体協議会の安全データシート（ＳＤＳ）作成・使用要領
１０．当社液化石油ガス類の安全データシート（MF-13）
１１．危険物船舶運送及び貯蔵規則（１７訂版）
１２．日本工業規格 JIS S2148:2013「カセットこんろ用燃料容器」，日本規格協会
１３．NITE 化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP）

この安全データシートについて

当該安全データシートは流通過程における取扱関連事業者からの要請で敢えて作成しています。
安全データシートの提供によって業務用等の家庭用以外にご利用いただけることを意図しているもので

はありません。上記ご理解の上、敢えて当社製品を家庭用以外にご利用いただく場合は、利用者側の責任にて取扱説明書や安全データシートを読み、使い方をよくご理解の上ご使用ください。また、添付ラベルは製品への貼付や使用場所での注意喚起のための掲示にご活用ください。

当該製品は家庭用一般消費生活用製品であり、消費生活用製品安全法及び液化石油ガス法が適用される製品です。万一製品に起因して、火災、ＣＯ中毒、死亡重傷を負う重大事故等が発生した場合、当社は消費生活用製品安全法にもとづき消費者庁に製品事故報告する責任がありますので、重大事故を知った流通事業者は速かに当社へご一報願います。

その他

この安全データシートは当社が知り得た情報に基づいて誠意をもって作成しております。記載データや危険有害性の評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。ご使用に先立って危険有害性情報のみならずご使用になる期間・地域・国の最新の法規則・条例・指導などは使用者が自ら調査しそれらを最優先してください。

販売・譲渡・提供致しました当該製品は安全性の点からも速やかに消費される事を大前提としております。その後、新たな情報や修正が加えられる場合もありますので、万一ご使用時期が大幅にずれ込んだり、ご懸念を抱かれた場合には、改めて当社にご相談ください。また、記載の注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって特別な取扱いをする場合は、状況に適した安全対策を実施の上、十分な注意を払いご使用ください。

全ての製品（化学物質）は『未知の危険性、有害性がある』という認識で扱うべきであり、その危険有害性も使用時の環境・扱い方・或いは保管の状態・期間によって大きく異なります。ご使用時は開封から保管・廃棄に至るまで、資格者、専門的知識、経験のある方のみ、或いはそれらの方の指導の下で、使用者各位の責任において安全な使用条件を整えて注意事項等を遵守しお取扱い願います。

製品名：イワタニカセットガス 成分　：液化石油ガス（ＬＰＧ／液化ブタン）	指針番号	115
内容量：250ｇ／本（最大貯蔵量：　　ｋｇ）	国連番号	2037

危　険

危険有害性情報：
- 極めて可燃性の高いガス
- 高圧ガス：熱すると爆発するおそれ
- 循環器系の障害
- 眠気又はめまいのおそれ
- 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害

注意書き

【安全対策】
- 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ガス／スプレーの吸入を避けること
- 漏洩ガス火災の場合には：　漏洩が安全に停止されない限り消火しないこと。
  完全に対処できるならば着火源を除去すること。

【救急措置】
- 気分が悪い時は、医師の診察／手当を受けること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。

【保管】
- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。
- 容器を密閉しておくこと。
- 部外者が立ち入らない場所に保管すること。

【廃棄】
- 容器は完全に使い切ってから地域の取り決めに従って廃棄してください。

【供給者情報】
- 発売元会社名　：岩谷産業株式会社
- 住所　：東京都港区浜松町２－３－１
- 電話番号　：０３－５４０５－５８３６
- ＦＡＸ番号　：０３－５４０５－５６３７

危　険

◆製品名：イワタニカセットガス
◆発売元：岩谷産業株式会社

◆連絡先：03 - 5405 - 5836

火気と高温に注意

高圧ガスを使用した可燃性製品であり危険なため下記の注意を守ること。
１、こんろで炭の火をおこしたり、こんろを2台以上並べて使用しないこと。
２、高温にすると破裂の危険があるため直射日光の当たる所や
火気等の近くになど温度が４０℃以上になる所に置かないこと。
３、火の中に入れないこと。
４、使い切って捨てること。
５、ガスを最充填しないこと。　　高圧ガス：LPG（液化ブタン）

（別表）物理的及び化学的性質

化学名	プロパン	ノルマルブタン	イソブタン	エタン	エチレン	プロピレン	1(α)-ブチレン	cis-2(β)-ブチレン	trans-2(β)-ブチレン	イソブチレン（γ-ブチレン）	ノルマルペンタン	イソペンタン	メタノール
融点・凝固点	−189.7℃（融点）	−138℃	−160℃	−183℃（融点）	−169.2℃	−185℃	−185.3℃	−138.9℃	−105.5℃	−140.4℃	−129.67℃（融点）	−159.9℃（融点）	-97.8℃
沸点、初留点及び沸騰範囲	−42℃（沸点）	−0.5℃	−12℃	−89℃（沸点）	−104℃	−48℃	−6.47℃	3.7℃	0.8℃	−6.9℃	36.06℃	27.8℃	65℃
引火点	−104℃	−60℃（密閉式）	−82.99℃	−130℃	—	−108℃	−80℃	−72℃	−73℃	＜−10℃	＜−40℃（cc）	＜−51℃（密閉式）	12℃
燃焼範囲（爆発範囲）	下限 2.1vol% 上限 9.5vol%	下限 1.8vol% 上限 8.4vol%	下限 1.8vol% 上限 8.4vol%	下限 3.0vol% 上限 12.5vol%	下限 2.7vol% 上限 36.0vol%	下限 2.4vol% 上限 10.3vol%	下限 1.6vol% 上限 10.0vol%	下限 1.7vol% 上限 9.0vol%	下限 1.8vol% 上限 9.7vol%	下限 1.8vol% 上限 9.6vol%	下限 1.4vol% 上限 8.0vol%	下限 1.4vol% 上限 7.6vol%	下限 6.0vol% 上限 36.5vol%
蒸気圧	840kPa（20℃）	213.7kPa（21.1℃）	304kPa（20℃）	3850kPa（20℃）	8100kPa（15℃）	1158kPa（25℃）	265kPa（20℃）	210.6kPa	234.6kPa	257kPa（20℃）	53.3kPa（18.5℃）	79kPa（20℃）	95.2mmHg（20℃）
ガス比重（空気＝１）	1.6	2.1	2.01	1.05	0.98	1.49	1.93	1.9	1.9	1.94	2.5	2.5	1.11
液比重（密度）	0.5853（-45℃/4℃）	0.5788（20℃/4℃）	0.6	0.572（-108.4℃/4℃）	—	0.5139（20℃/4℃）	0.6255（-6.47℃/4℃）	0.6	0.6	0.589g/cm3（25℃、P>1atm）	0.62638（20℃/4℃）	0.6	0.7915（20℃/4℃
溶解度	62.4mg/L（25℃、水）	61mg/L（20℃、水）	48.9mg/L（水）	47mg/L（20℃、水）	131mg/L（25℃、水）	200mg/L（25℃、水）	500mg/L（水）	700mg/L（25℃、水）	265mg/L（25℃、水）	30mg/100ml（20℃、水）	360mg/L（16℃、水）	48.0mg/L（25℃、水）	1.00×10^{6}mg/L（水）
n-オクタノール/水分配係数	log Pow=2.35	log Pow=2.89（測定値）	log Kow=2.8	log Pow=1.81（測定値）	log Kow=1.13（測定値）	log Pow=1.77	log Kow=2.4	log Pow=2.33	log Pow=2.31	log Pow=2.35	log Pow=2.36	log Pow=2.30（推定値）	logPow=-0.82～-0.66
自然発火温度	450℃	287℃	460℃	472℃	490℃	455℃	385℃	324℃	324℃	465℃	260℃	420℃	464℃
その他のデータ（分子量）	44.1（ICSC）	58.1（ICSC）	58.12	30.1（ICSC）	28.054	42.08	56.1	56.108	56.108	56.108	72.15	72.15	32.04
ＣＡＳ番号	74-98-6	106-97-8	75-28-5	74-84-0	74-85-1	115-07-1	106-98-9	590-18-1	624-64-6	115-11-7	109-66-0	78-78-4	67-56-1

（参考）CAS 番号には、液化石油ガス：68476-85-7、ブチレン異性体の混合物：25167-67-3、2(β)-ブチレン：107-01-7 の分類もある。

（出典：職場のあんぜんサイト、国際化学物質安全カード(ICSC)）